

民児協 あこっ



支えあう 住みよい社会 地域から

第 58 号 令和 3 年 春号



ジャンプ!!

有年幼稚園 参観日

民生委員児童委員信条

一、わたくしたちは、隣人愛をもって、社会福祉の増進に努めます。

一、わたくしたちは、常に地域社会の実情を把握することに努めます。

一、わたくしたちは、誠意をもって、あらゆる生活上の相談に応じ、自立の援助に努めます。

一、わたくしたちは、すべての人々と協力し、明朗で健全な地域社会づくりに努めます。

一、わたくしたちは、常に公正を旨とし、人格と識見の向上に努めます。

児童憲章



児童は、人として尊ばれる。

児童は、社会の一員として重んぜられる。

児童は、よい環境の中で育てられる。



民生委員児童委員 各地区活動報告



赤穂地区「心をこめて笑顔で訪問」

赤穂地区の友愛訪問は、1月、3月、7月の合計3回です。1月は、年賀状の配布です。3月と7月は、季節を感じさせる品物と小学生の折り紙や手紙を添えて訪問しています。品物は、ひとり暮らしの方々の実用性を第一に、尚かつ、季節が感じられる物を皆で意見を出し合い、時には、リクエストを聞きながら考えます。品物より手紙を心待ちにしている高齢者の方が多いことに驚きます。人と人をつなぐ喜びを感じながら「いつもありがとうございます！」の言葉に逆に励まされています。



御崎地区「友愛訪問で見守り活動」

御崎地区地域福祉推進連絡会は、民生委員児童委員と福祉推進委員の27名で構成され、年間を通じて月1回の有料給食サービス、年3回の安否確認を兼ねた友愛訪問の実施、まちづくり推進協議会主催の花見の会・敬老会・餅つき大会等への参加協力を行っています。今後も地区内福祉情報の収集と、会員相互の連携と協力により地域福祉活動の充実を図っていきたくと思っています。



城西地区「友愛訪問で安否確認」

城西地区は1月26日に友愛訪問を実施しました。コロナウイルスの影響で、昨年は給食作りを休止していたため、手作り弁当は無理と判断し、業者に発注しました。赤穂中学校「ハンコ部」のみなさんが、「消しゴムはんこ」で弁当の掛け紙をホッとする図柄で飾ってくれ、大変喜ばれました。カップのみそ汁と友愛品を添えて、一軒ずつ声かけながら訪問しました。どうぞお元気で！



坂越地区「植樹の体験」

先生目線…坂越小3年生は、海・山・川に囲まれた坂越の自然を調べ誇りに思うようになり、自分たちも自然を守る活動をしたと、船岡園に桜の植樹をしました。土づくりなど地域の方々に習い、皆で協力して植えた「わたしたちの桜」です。これから3年生達と一緒に成長していくことでしょう。子供目線…船岡園は桜で有名だけど、その多くは坂越小の先輩たちが植えたそうです。ぼくたちも協力して大切に育て、坂越の自然を守りたいです。

塩屋地区「お餅配り訪問」

12月19日にお餅配りをしました。幸せを届けようと大きな鈴の絵を描いた上書きをお餅の入ったパックにかけ、それに塩屋小学校の子ども達が生きた心のもったお手紙を添えて準備完了。柔らかくてつやつやのついたのお餅。喜んでいただけるだろうとウキウキ気分が出発しました。笑顔で玄関に出てきてくださった高齢者の方との会話を楽しみ、心を通わす時間を過ごすことができました。人と人が繋がって生活することの大切さをさらに強く感じた訪問でした。



高雄地区「友愛訪問活動」

高雄地区では、令和2年2月20日に友愛訪問活動を実施いたしました。今年は、コロナ禍の中、3密を避ける為、手作り弁当を中止しまちづくり協議会の協力のもと市販のお弁当をティッシュ、お菓子と一緒に配りました。皆さん、楽しみに待っておられ「ありがとう」の言葉を頂き、こちらも皆様の元気な顔を確認させていただきました。



西部地区「歳末たすけあい餅配布事業」

令和2年12月20日(日)、きびしいコロナ禍のため、例年の三世交代もちつき大会は、中止となりました。しかし、「歳末たすけあい餅配布事業」としまして、西公民館長さんのアドバイスにより、業者の方が、衛生面に十二分に気をつけて作ってくれたお餅を、一人暮らし老人、高齢者世帯に推進委員さんと共にお届けさせていただきました。皆様、とても喜んでくださいました。一日も早く新型コロナウイルスが終息して、もとの生活に戻ることを祈りつつ、お餅配布事業を終わらせていただきました。



有年地区「コロナに負けるな」

2月17日9名の民生委員児童委員が114名の方々に友愛訪問を行いました。以前は推進委員さん手作りのお弁当を用意していましたが、新型コロナウイルス感染防止の為、今回購入巻きずしにお菓子、即席お吸い物をお土産にしました。私の訪問家庭は8軒で、持病をお持ちの方も多いたが笑顔で迎えて頂きました。短い時間でしたが、体の具合や特殊詐欺注意等の話をさせてもらいました。

尾崎地区「心肺蘇生(胸骨圧迫)習得」

民生委員児童委員として心肺蘇生(胸骨圧迫)の習得は必要不可欠です。もしも、近くで親しい人が心停止で倒れたら助けることができますか。何もしなければ確実に死亡します。死亡を免れたとしても脳細胞が死滅し半身不随・言語障害等の重大な障害が残るかもしれません。尾崎地区は今年度の習得を目指します。



広報部会

新型コロナウイルス感染拡大が依然収束状態にならないまま一年が過ぎ手洗い・うがい・マスク、密を避け不要不急の外出をしない、飲食をする際には距離をとり大きな声で喋らない等、生活様式も一変してしまいました。「誰もが健やかに暮らせる安心と安全のまちづくり」の一端を担うため各地区、各部会の委員活動について広報紙「民児協あこが」を春号、秋号と発行し、取り組んでいる課題や研修内容などをお伝えしています。





児童福祉部会

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症に翻弄され制限された活動しかできない一年となりました。

さて、昨年の自殺者は全国で約21,000人にもなり、内、小中高の自殺者は440人で18%もの増加で過去最悪となりました。これは、コロナ禍による生活環境や学習方法の変化により、孤立化が進んだのが一因ではないかといわれています。子供は危機が迫るほど援助を求められないといわれており、大人が手を差し伸べねばならないと思われます。赤穂市では、令和2年度に「第二期赤穂市子ども・子育て支援事業計画」が発表され、新たに「SDGs」（誰一人として取り残さない）を基本的視点に取り入れましました。今年もコロナウイルス次第となりますが、私達はこの新たな視点を共有し、関係機関との連携を深め、研修等で研鑽に努めてまいりたいと思ひます。

障がい者福祉部会

令和2年度の部会活動は、新型コロナウイルス感染防止対策に終始、不慣れな環境の中で行事を実施しました。

7月定例民児協研修では事例研修「障がいのある人と共に暮らすために」で、地域の見守りの大切さを学びました。9月には「点字を知ろう」で自身の名刺を作成。評価・合格に苦戦をしました。10月には「キャンドル制作に挑戦」で、ピアサポート兵庫の皆さんと作品作りに汗を流しました。また、今年1月の研修「広げよう お互いさま」では、地域づくりの大切さを学ぶことができました。

コンパクトな行事に心掛け安全に実施できたのは、委員・関係団体の皆さんの協力とご配慮のお陰です。

新型コロナウイルス感染拡大は大きな社会変化をもたらし、非接触型社会が誕生しました。人と人との関係が希薄化した社会は高齢者、児童、障がい者の方にはかりしれない影響を与えています。

孤独、孤立を生まない助け合いの社会、その本質を少しでも学ぶ部会にしていきたいと思ひます。

高齢者福祉部会

令和2年度は、コロナ禍により当初計画に掲げた高齢者福祉施設の見学が実施困難な事態となり、私達の活動の視野が狭くなる思いは否めませんでした。今出来ることを模索しながら研修会を実施して参りました。

研修によって人と人との繋がりや互いに助け合い支え合う地域づくり、健康で社会性を保つことが高齢化社会において益々大切であると再認識致しました。

現在、地域での交流が希薄化し、日常生活や心に不安を抱えている高齢者の方も多いと懸念されますが、今進行中のワクチン接種は明るい兆しとなつて、日常も徐々に回復され私達の活動の幅も広がるのではないかと期待されます。

今年度も高齢者の方々の問題点の把握に努めると共に対応力の向上を図り、地域貢献に繋がる研修を重ねたいと思ひます。



どちらにしようかな〜♪

子育ての中で、選ぶという場面は日常にあります。お着替え、食事、遊び・・・などなど。その時つい、「はよ、きめて」、「男の子（女の子）やから、こっちかこっちの色やな」とか言ってしまうようになりますよね。

そんな時、「どちらにしようかな〜♪うらの神様のいう通り〜♪」と、子どもの頃、お友だちとの遊びの中で使っていたわらべ歌はいかがですか？言葉を音にのせると、自分自身の心も柔らかくなって、子どもたちにも選べる余裕ができるような気がします。自分の意思で決めて、相手に伝えるということは、長い人生の中で大切なことだと感じる今日この頃です。さあ、「どちらにしようかな〜♪」

編集後記

昨年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のために各地区、各部会での活動も中止や縮小されました。

ワクチン接種の開始でようやく先が見通せそうな中で、少しずつ地区や部会の活動が再開されました。

今回は、皆様の明るく楽しい様子をご紹介いたしました。